

Huang, W. L., Tu., Yang, L., Fang, S. Z. & Li, J. L. (1982) Vegetation in the Fanjingshan Mountain Preserve. In Scientific Survey of the Fanjingshan Mountain Preserve, 93 - 130. Guizhou Province.

前田楨三, 吉岡二郎, 1952. 秩父山岳林の研究 (第2報). 東京大学演習林報告, 第42号: 129 - 150.

三木茂, 1953. メタセコイア. 日本礦物趣味の会.

大沢雅彦, 1983. 東アジアの比較植生帯論. 現代生態学の断面, 206 - 213. 共立出版.

大沢雅彦, 滝口正三, 達良俊, 1986. 白神山地のブナ林の生態学的特性. 白神山地のブナ林生態系の保全調査報告書, 88 - 105. 日本自然保護協会.

滝口正三, 大沢雅彦, 梶幹男, 入倉清次, 木村陽子, 1975. 苗場山におけるブナ林域の森林植生. 奥清

津ダムに関する学術調査報告書, 71 - 136. 日本自然保護協会.

棚井敏雅, 1971. 北半球の第三紀植物地理について. 松下久道教授記念論文集, 201 - 216.

塚田松雄, 1974. 古生態学II - 応用論 -. 共立出版.

Tsukada, M. 1982. Late-Quaternary shift of Fagus distribution. Bot. Mag. Tokyo 95: 203 - 217.

Wang, C. W., 1961. The forests of China with a survey of grassland and desert vegetation. Maria Moors Cabot Foundation Publ. No. 5. Harvard University.

Zhu, S. Q. & Yang, Y. Q., 1985. The structure and dynamics of Fagus forests of Guizhou Province. Acta Phytocologia et Geobotanica Sinica, 9: 183 - 191.

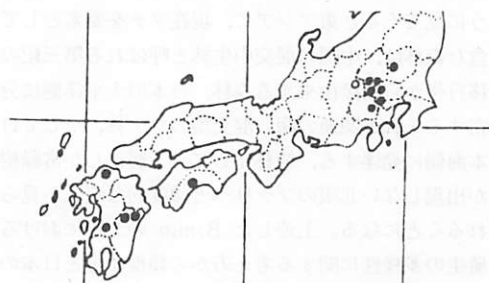
〔植物ニュース〕 99. キンモウワラビ *Hypodematum fauriei* Tagawa

キンモウワラビは、根茎と葉柄の基部に長さ25mmに達する文字通り金色の細長い鱗片が密生する。植物体全体は、やや硬めのしっかりしたシダである。

県内では、杉本(1966)に「信濃の報告がある。多分群馬県境方面と推測する。」とある。横内(1983)には、同書を引用したと思われる同じ文があるのみで、確かな採集報告は、ないようである。

昨年夏(1986年8月17日)小諸市新町で、ヒメウラジロの写真を撮影中、畑の石垣で1株発見した。花里先生、奥原先生に同定していただいたところ、キンモウワラビであることが確定。さらに大塚氏にお聞きした所、長野県では、まだはっきりした報告がないということがわかった。その後、秋に佐久の植物委員会で見直ししたところ、10株ほど同じ石垣に生育していることが確認された。

キンモウワラビは、全国的にも特異な分布をしている(図)が、関東山地の東側に、その分布の中心



キンモウワラビの分布 (倉田・中池 1979)

があるようである。この分布状況からみて、佐久では、まだ、他に分布地が見つかる可能性がある。今のところ、当地だけであるので、大事に保護していきたい。(山崎 惇)

100. ユキツバキ *Camellia rusticana* Honda

戸隠山麓では、野生のユキツバキの分布が以前から話題となっていた。西側の鬼無里の谷でも見つかっていないが、最近奥裾花の吉池のブナ林に生えている。調べてみると昭和55年に地元の鬼無里村が新潟県から苗木を取り寄せて、約50本を植樹したものだという。既に翌年から花をつけたといい、吉池の近くでは自然のものと思われるほどブナ林になじんでいる。

前号で清水氏がハケ岳のウワウルシのことを紹介されているが、最近、各地の湿原にミズバショウが植わったり自然分布が乱れている。後々のために、わかっていることは記録しておくことを提案したい。

奥裾花のユキツバキ資料は村役場の徳高周二氏に教えていただいた。(和田 清)

